

2023年度

2月11日

入学試験

国語

(30分)

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は□一から□二まで、7ページにわたって印刷してあります。
- 3 解答の下書きが必要なときは、この問題用紙の余白を利用しなさい。
- 4 解答用紙には、受験番号と氏名を書きなさい。
- 5 解答はすべて解答用紙に書き、解答用紙を提出しなさい。
- 6 句読点、記号、符号はすべて1字として数えなさい。
- 7 本文中には、問題作成のために省略や表現を変えたところがあります。
- 8 解答は、すべて解答欄の枠の中に記入すること。

かえつ有明高等学校

一 次の各問いに答えなさい。

問一 次の――部の表現の使い方として、適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼女の冷やかかな表情をみる限り、取り付く島もない。
- イ 彼は気が置けない人物で、いつも気配りが必要である。
- ウ 固唾かたずをのむほどのとても素晴らしい演劇だ。
- エ 最初に決めたことが変更されたので、もう身も蓋かたもない。
- オ 父親は自分の主張を徹頭徹尾曲げることはなかった。

問二 次の和歌について、各問いに答えなさい。

わびぬれば 今はた同じ 難波なには（なには）なる

みをつくしても 逢はむと A 思ふ

1 「わびぬれば」の現代語訳として、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 思い悩んでしまったので
- イ 嘆かわしい気持ちがつうつて
- ウ 申し訳ない思いになったが
- エ 物思いにふけていたが

2 「みをつくし」には、「滯漂みおつくし」と「身を尽くし」の二つの意味が詠まれています。このような修辭法を何と言いますか。五字以内で答えなさい。

3 A に当てはまる語句として、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア こそ           イ もぞ           ウ ぞ
- エ ど           オ ばや

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小原 もう一度、身体性について考えてみたいと思います。人間は五感の中でも特に視覚を拡張し、視覚中心で生きてきたと言われましたが、ジャングルにいるとき、つまり二足歩行する前には、四足歩行で、場合によっては地に這はいつくばったり、木の上で匂いを嗅いだり、あるいは触覚をフル活用しながら生きのびてきたわけですよ。人間は今でも、そういう五感の基本的な機能は持っていますが、二足歩行するようになってからは空間認識を拡張し、視覚を中心とした認識世界を持つようになりました。そして、<sup>①</sup>その傾向は現代になればなるほど、一層強くなるわけです。

今、日常生活の中で、真剣に触るものといえば、もっぱらスマホだけだという人も少なくありませんし、匂いを嗅ぎ分けるようなこともしません。結果的に、視覚以外の五感については機能が低下しているでしょう。しかし、人間の生きる意味は、ずばり言うと、人間の身体性と密接に関係していると私は考えています。抽象的な意識の問題ではなく、やはり体を通じて、<sup>②</sup>五感というインターフェイスを通じて、この世界をどのように感じるのか、そして、その中に自分が存在しているということとどのように認識するのか、という試行錯誤の中で、初めて、生きる意味というものを感じられるようになると思います。ですから、外界との身体的なやり取りなしに、自分の頭の中だけで、

私の人生の目的は何なのか、自分は何者なのかというようなことを悶々もんもんと考えたところで、体にぐっとくる答えは出てこないと思いますね。

これは教育にも関わる大事な問いですが、視覚依存的な今の人間形成、あるいは社会の形成がすでにあり、それが今後一層、IT技術などによって加速されていくとすれば、本当にこのまま進んでいってよいのでしょうか。今の教育も視覚中心の認識世界をベースにして成り立っています。人間が持っているすべての五感や身体能力を全体として発揮させて、生きる意味を充足させてくれるような教育は、多くはないと思います。我々が視覚に過度に依存し、極めていびつな形で身体を使っている現在の状態を、このまま拡大していくことに危うさを感じます。

その問題を宗教の視点から考えることもできます。宗教には、教義など、いわば知的なレベルの要素もありますが、一方で身体作法が重視されています。例えば神社であれば、手と口を水で清める作法がありますし、仏教寺院ではお香の香りを胸いっぱいAに吸い込むことによって、非日常の感覚を持つことができます。それぞれの宗教が多かれ少なかれ、伝統を文書としてだけでなく、身体作法として、ケイシヨウしています。特定の儀礼を繰り返すことによって、大事なことを体におぼえさせるということですね。ところが、現代の都会生活の中では、<sup>③</sup>そういった要素は日常的にはほぼ失われています。

我々がやりとりする情報はまさに視覚情報であり、電子的な



その特性そのものを悪いとは思いません。<sup>\*</sup>ライオンマンの彫刻をつくった時代、人間は虚構をつくり出す力をすでに持つており、この世に存在しないものをつくったり、描いたりすることによって、現実の中に目に見えない存在を<sup>⑤</sup>顕現させることができました。バーチャルなものを思考する強力な能力を人間はるか昔から持つていたわけです。しかし、そのような人間も自分たちの意のままにならない圧倒的な自然の力の前で身体を駆使して生きなければなりません。言い換えれば、人間はリアルな現実と身体的な根を下ろし、そこからバーチャルな世界に飛び立っていたわけです。

現代において心配なのは、人間がリアルとバーチャルの間を行ったり来たりする身体バランスを失い、インターネットのようなバーチャル世界に自分好みの情報空間をつくって安住し、猥雑で予測不可能な現実と向き合う機会が減っていることです。

**山極** そこが一番の問題ではないかと思うんです。今我々が大学生として学生たちに何を教えたらいいいのかといえば、それは、生の現実にきちんと根を生やすことだと思います。人間は物語をつくり、物語の中に生きるという自由を持つているかもしれないが、それを常に生の現実の中に結びつけて、考えなければいけないわけですよね。

**小原** そのとおりだと思います。ところで「ゴリラに学べ！」というのは、具体的にどのようなことを考えておられますか。

**山極** それは、自分の行為が他者にどう映っているのかという

のを、常に直観的に判断できるようになれということです。

私はグローバルな人材というところにいくつか指標を<sup>B</sup>カカ<sup>!!!</sup>げていて、その中で一番重要なのは自己判断が可能なこと。そして、アイデンティティを持つこと。危機判断ができること。それから他者を感じさせること。この四つが必要だと思っすね。これらはまさに、生の身体行動をしないと、できないことだと思います。

**小原** その四つの指標は明快で説得力がありますね。生の身体行動がそれらの大前提ということですが、現実には、情報社会の中で人間は情報処理装置のようになっていきます。情報を与えられ、そしてそれをいかに効率よく正確に処理できるかという点で、人間の価値が評価されるような感じですよ。入試も基本的には同じだと思います。問いが与えられて、それに対し限られた時間の中で正確な答えをたくさん出した人が、高い点数を与えられて、立派な人間だと判断されるわけですから。ですから、情報処理装置としての人間づくりを、社会全体でやっているような気もするんですよ。

**山極** ただ、情報というのは処理も操作もできるけど、閉じ込めることはできません。情報は勝手に広がってしまいます。フェイクニュースがそうであるように、いったん現れた情報を取り除くことはできない。となると、人間が情報に使われてしまう結果になる。情報社会の一番恐ろしいところは、情報が無

限に「フク」で、情報が人間を使っていくようになる。人間が情報の奴隷になるということですよね。

**小原** 多かれ少なかれ、もう我々はそういう状態になっていると思います。しかし、それを自覚してその中にいるか、自覚すらしていないのか、では大違いだと思います。ですから、情報にどっぷり浸かる中で情報の奴隷になっているかもしれないということ、外部から批判的に対象化してくれるような視点はどこかにありはしないかと考えるわけです。

私は、自然の中にある情報こそが、その外部的な視点ではないかと思います。人間は、長い間、自然界と様々な情報を直観的にやりとりしながら、自分はどうのように生きるべきかを考えてきました。しかし、現代において情報というと、第一義的にはインターネットやSNSで溢れているようなデジタル情報ですよね。そういう情報の中だけに人間が放り込まれてしまうと、極めて主観的になり、そして情報の一部となって、その中に埋没したり、奴隷化されていくことにもなりかねません。しかし、そういう構造がすでに現代社会の中心を占めています。であるからこそ、その構造を外部から批判的に見せてくれるような視点が必要であり、その一つはやはり、人間の意のままにならない自然とやりとりする経験を持つことだと思います。

(山極寿一・小原克博『人類の起源、宗教の誕生

ホモ・サピエンスの「信じる心」が生まれたとき』より)

\*ライオンマンの彫刻：約五万年前（後期旧石器時代）の象牙の彫刻

問一 ……部A～Dの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 ① その傾向 とありますが、これはどのようなことですか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間は本来、五感の中でも特に視覚を拡張してきたが、それを更に研ぎ澄まして重要視していること。

イ 大昔の人間は、五感を使って世界を認識していたが、現在は視覚による認識に偏っていること。

ウ 人間は視覚により世界を認識してきたが、多様化した社会ではそれだけではまかないきれないこと。

エ 人間の視覚以外の五感の機能が低下していくことで、世界や自己の認識が難しくなっていくということ。

問三 ② 五感というインターフェイス を言い換えた表現を、文中より十二字で抜き出しなさい。

問四 ③ そういった要素 とはどのようなことですか。最も適

当なものの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身体性を重視し、特定の儀礼を繰り返すことによつて教義などを解釈するという作法。

イ 宗教上の教義など、伝統的に人間が視覚中心に認識しているという知的レベルでの理解。

ウ 五感の中でも、特に視覚以外の感覚を通して非日常性を身体に取り戻していくという感覚。

エ 視覚を通じた「思考」ではなく身体を通して大切なことを体得していく姿勢。

問五 a c に当てはまる語句として、最も適当

なものをそれぞれ次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ しかし ウ 一方

エ たしかに オ むしろ

問六 ④ そういふ逆転現象は、すでに起きているように思いま

すね とありますが、山極さんと小原さんの対談を踏まえ「逆転現象」についての説明として、適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間は、生の現実のなかに生きる意味を見出しているが、今はバーチャルな世界の方がリアリティをもち、現実の世界と向き合うことが減っているということ。

イ 人間は本来、バーチャルなものを創り出すという力を持つており、現実の世界よりもその方が直観的な視点を養うことができるようになってきているということ。

ウ 人間は、現実の世界のなかでのやりとりの経験によって、直観力が身につくはずであるが、今は、バーチャルな世界によって直観の能力が身についているということ。

エ 人間は本来、生の現実に身体的な根を下ろしてきたが、現在は、現実の世界よりも虚構の世界に身をゆだねている傾向が強くなっているということ。

オ 人間にとつてバーチャルな世界は、本来現実の世界と交換不可能であり、倫理から外れた非現実的なことにリアリティを感じてしまっているということ。

問七 ⑤ 顕現<sup>⑤</sup>の意味として、最も適当なものを次から一つ選

び、記号で答えなさい。

ア 頭の中で思い浮かべること

イ はっきりとあらわすこと

ウ ある現象がきわだつこと

エ 秘密を暴露すること

問八 文中で「ゴリラに学べ！」と主張している根拠として、

最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ゴリラのように、身体を駆使して生きるリアルな現実

根をおろし、自分たちの意のままにならない自然とも向

き合い生きることが現代の人間に求められているという

こと。

イ データ化された情報にばかり振り回されている現代の人

間からすれば、生身の体で自由度を広げているゴリラの

生き方の方が幸福度が絶対に高いと評価されているとい

うこと。

ウ 人間は物語のなかに生きる意味を強く見出してきている

のに対し、ゴリラはジャングルの中で生活し、バーチャ

ルな世界とは関係ないところに存在しているということ。

エ 仲間からの期待、他との関係に支えられて生きているゴ

リラは、現代の人間が見失っている客観性を持ち、デー

タでは見つけることのできない生きる意味を見出してい

るということ。

問九 X 生きる意味<sup>X</sup> とありますが、文章全体を踏まえて筆者

が考える「生きる意味」について、あなたはどのように考

えますか。八十字以内で答えなさい。

